

一つながり、創る、京の知恵一

中丹の教育

京都市中丹教育局
第193号
令和5年10月17日



まなび通信

令和5年度「中丹の教育」コア会議 令和5年9月1日(金)

本会議では、「魅力ある学校づくり」の実現に向けた教育活動を推進するための教務主任としての役割について、また、京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果分析のよりよい活用や目指す子ども像の実現に向け、認知能力と非認知能力を一体的に育む教育活動について、交流、研究協議を行いました。

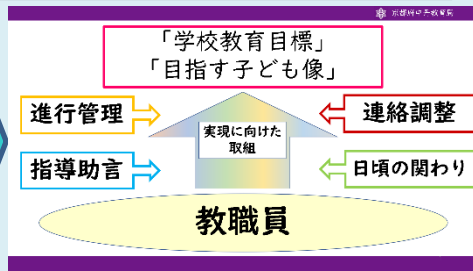
課題提起

「学校の中核として、教務主任の校内での役割や責任を自覚し、学校教育目標、目指す子ども像の実現に向けて、学校組織をさらに活性化させる必要がある。」

学びのパスポートの分析を生かす!

京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果をもとに交流し、よりよい活用を考えるとともに、魅力ある学校づくりに向けて、学校の組織的な動きについて考える。

それぞれの取組に、教務主任としてどのように関わるのか



研究協議!

京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果から、どのような校内研究会を行ったか。そこで出てきた分析や視点はどのようなものか。

分析のグループ作り

複数で分析を行う際には、「学年ごと」「学級担任と担任外」「隣接学年」「前年度の担任」など、学校規模や実態に応じて、グループ設定を工夫する。

分析の視点

膨大な調査結果のすべてを分析することは難しいため、項目を絞って分析する。その際、中学校ブロックで合わせて項目を決定するなど、小中一貫の視点を大切にする。

分析から手立て

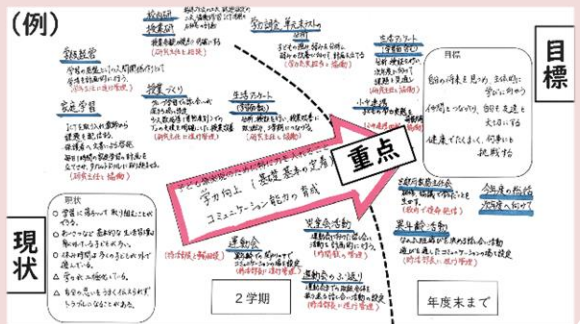
調査結果の数値や集団としての相関係数などの数値だけでなく、日頃の見取りも含めて、総合的に手立てを検討する。

研究協議2

目指す子ども像の実現に向けて、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむため、教育活動について整理し、教務主任としての関わりを考える。

京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果分析から、目指す子ども像を再確認し、児童生徒の現状や課題を整理します。その現状や課題から、2,3学期の取組を改めて位置付け、認知能力と非認知能力の一体的な育成に向けて、教務主任としてどの分掌とどのように関わる必要があるのか、具体的に考え、協議を行いました。

それぞれの取組の意義や目的を再整理し、今後の取組や活動が自校のどの課題解決につながるのかということを学校全体で共有して教育活動を進めていきます。教務主任は、全体を把握しつつ、組織として動くことができるよう、調整、連携、協働していくことの大切さを確認しました。



参加者振り返りより

- ・学びのパスポートの活用について、年間を通じて活用するという意識は乏しかったので、本校でも取り組んでみたい。また、強みを伸ばす視点も大切にしたい。
- ・学びのパスポートの結果を見ても、現在学校で取り組んでいることや取り組もうとしていることは有効な手段になるはずである。結果やチャートの分析は今後も継続していくことになるが、生徒の学習実態や生活も考えながら、有効な一手を探っていきたい。
- ・教育活動プランを作成し、自校の児童の実態や課題、その改善に向けた取組が自分の中で具体化できたので、管理職の先生方と共有し、教務主任として他の先生と相談、協働を進めていきたいと思いました。児童の課題だけでなく強みに対しても分析し、手立てや取組の改善を図りたいと思います。

まとめ

- 学校教育目標、目指す子ども像の実現に向けて、実効性のある取組にするため、**教務主任としてそれぞれの取組が、どんな非認知能力の育成につながるのか、見通しを持って関わっていく。**
- 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～を**効果的に活用することで、魅力ある学校づくりに向けて組織的な取組につなげる。**